

Ⅰ 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心もからだも 元気な子	あそびのなかで げ(け)いけんを かさね つながろう ちいきとともに	園児は人・物・事との関わりの中で自分がやりたい遊びを選び、試行錯誤しながら夢中になって遊んでいる	子ども自らやりたい遊びや教材を選択出来る環境を整えたことで“やってみたい”意欲が高まり、試行錯誤しながら遊んでいる。園内だけでなく、園周辺の地域の人・物・事とのつながりを広げていきたいと考える	B	A	・子どものおそびは無量大で、遊びの拡がりを感じられる環境だった ・環境が整って、仕掛けもあり保育者の努力を感じられる	・今年度発足したUDプロジェクトを継続し、地域資源の活用（人・物・事）として、地域探索を子どもと実施し新規開拓を目指す ・他園の公開保育、園内研修に参加し学びから実践に活かす（やります宣言！）
		園児は身近な人に親しみを感じながら、相手の思いを聞いたり、自分の思いを言葉や行動で表現したりしている	子どもの声や思いに丁寧に応えてきた。受け止めてもらった経験から、自分の思いを言葉や表情で伝えている。保育教諭は、園児が相手の話に耳を傾け、知ろうとする意識を高め、周りの人により親しみを感じられるようにしていく	B	A	・乳幼児の教育・保育は「個別最適な学び」をまさに実践していると感じた ・子どもたちの声を聴きながら、丁寧な関わりをしてくれているのを感じている。保護者としても安心して園に子どもを預けることができている	・日々の活動の中で、聞く・話す・伝える経験を重ねていく（1日1回サークルタイム） ・伝えあいタイムを活用し全体で遊びのすり合わせを実施する（環境、使い方、時間） ・毎月の指導案検討時に「今月の取り組みキーワード」を決め、教育・保育のポイントを絞る
		園児は、友達や保育者と一緒に「やってみよう」と体を動かすことを喜び、次への意欲が育っている	友達が取り組んでいる姿や様々な運動器具、可動遊具に興味をもち、出来た喜びを感じたり、繰り返し挑戦したりする姿が見られた。年齢に応じた環境作りが弱く、他学年の遊びを保障しながら遊びの拠点作りが必要と考える	B	A		

Ⅱ 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	保育教諭は、育ちのつながりを意識し、学年目標に向けて教育・保育を行っている	クラス、学年、全体での伝え合いタイムを活用し、職員間の共通理解を深めながら教育・保育を行った。発達性の連続性を踏まえ、育ちの共有をしているながら、育ちのつながりの見取りや価値づけをして、こども理解を深めていく	B	A	・前年度の評価資料と照らし合わせた時に、前年度の課題に必要感をもって指標を変え、取り組んできているのが分かった。教育課程を念頭におきながら、職員が実行に移しているのを感じる	伝え合いタイムの伝えあう人・機会のバリエーションを増やし、(クラス・学年・乳児・幼児・全体)各学年の育ちを「10の姿」に落とし込みつながりやその先の姿を意識していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	保育教諭は、在園時間や個々の生活リズムの違いを踏まえ、子どもが主体的に園生活が送れるようにしている	幼児は早めの登園を呼びかけたことで、子どもたちで準備をしたり、遊び出したりする姿が見られた。早番から日中、遅番までの遊びのつながりを意識した環境作りをプロジェクトを中心に今後も行っていく遊びの保障をしていく	B	B		早速プロジェクトを継続し、在園時間の一日を通じた教育・保育の工夫、見直しを伝えあいタイムを活用しながら「つながり」「ひろがり」を意識し行っていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	保育教諭は、子どもの今日の楽しいの姿から明日への手立てを考え遊びだしの環境を作っている	子どもと一緒に考え、遊びの振り返りを行うことで、「明日もこれやろう!」と今日の“楽しさ”“面白さ”が明日への遊び出しの環境へとつながっていった。日々と行事とのつながりを意識しながら、遊びを保障していく	B	A	・「あそびだし」という言葉、言葉の意味を初めて学んだ。「あそびだし」が今日から明日へつながっているのだとわかった	UDを活用し、子ども自らが遊びの中で準備から片づけまでできる環境作りをしていく。また「片付け」以外の言葉での投げかけをする等遊びの続きを踏まえた終わり方を考える
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は定期的に安全点検や避難訓練等を実施し、全職員が危機管理意識をもち、安全な対策がとれるよう努めている	災害時の突発的な事を予想し、職員一人ひとりがその場の状況を把握し、自分たちで出来る事を考えて行動するように訓練を実施した。新しい情報を取り入れながら、その都度、子どもと共にやるべき事を考え訓練を実施していく	B	A	・避難訓練は現実味を帯びていなければならない。実際にどう命を守るのかを踏まえて活動内容を考えていかなければならないと思う。家庭でも一緒に取り組んでいくことだと思った	突発的な災害を想定しての事前周知のない訓練を年間計画で増やし、園児も職員も自分で考えて命を守るスキルを身につけていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園児は、生活に必要な様々な習慣や食への関心を深め、自分でやってみようとする意欲が育っている	給食レシビ、ボード等で保護者への発信が増え、子どもも大人も食への関心が高まった。食だけでなく、生活習慣、食スマナーについても子どもの実態を伝えあいながら（手洗い、うがい、ハンカチの携帯など）意識を高めていく	B	A	・先生方一人一人が園全体を把握し、どの子も誰一人も語るのが素晴らしいと思った	日々の園生活とつながる年間計画を作成する。また、生活習慣の定着化として食育集会の日に併せて、ポイントを絞り働き掛けを毎月実施し、繰り返し伝える機会を設ける
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、一人一人の育ちの理解を深め育ちに合った適切な関わりやどの子も過ごしやすい環境作り（UD）を行っている	すべての園児が見て分かるような環境作りとしてUDの視覚支援教材を作り、園内で共通の物とした。支援体制として「共有したいこと」にポイントを絞り、会議・伝えあいタイム等で共有し、職員が同じ支援が実施できるようにした	B	B		支援児とともに、すべての園児が過ごしやすい環境作りを継続し、園内共通の視覚支援教材を増やしていく。ケース検討を実施し、支援方法の幅を広げ職員の資質向上を図る
5 組織運営	(1)組織体制の充実	保育教諭は、自身の役割に見通しと責任を持って取り組み、全職員で共有しながら計画的に行っている	分掌やプロジェクトによる活動等、職員が自分の役割に責任を持ち、子どものための園作りを協力しながら行った。見通しをもった準備や計画、環境作りを行い、情報の共有をしながら、園全体で取り組む意識を向上させた	B	A	・研修では、話し合いの内容を系統だてて理解を深め、見える化を意識している。研修での学びを実践に生かしているのが素晴らしいし、そこまでの研修を実施しているのが今回よく分かった	行事の計画表作成時に役割分担、締め切り期日を明確にし、業務の進捗状況の把握を職員間で行っていく。また、業務分担を乳児と幼児のクラスペアにし職員全体で取り組む体制を作る
6 研 修	(1)研修体制の充実	保育教諭は、園内研修を通して子どもの姿を語り合い、日々の実践や公開保育を振り返り、重点目標や研修テーマの実現に努めている	公開保育参観者をグループ分けし、全職員が平等に研修に参加できた。伝え合いタイムの活用により、パワーポイントを通して研修に参加出来ない職員にも報告を行っている ・ICTの活用で視覚的に分かりやすい研修になっている	B	A		伝え合いタイム活用の多様化を考える。若手職員の子どもの理解やスキル向上の悩み、アドバイスをもらえる機会にする。公開保育後の取り組みを共有する場としても活用していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園はヒヤリハットを検証し、原因と改善を職員間で周知し、安心・安全な園庭・室内環境作りを行っている	園内から出たヒヤリハットを、会議で周知及び検証し、情報共有を行い、教育・保育の環境作りに活かした。ヒヤリハットの周知、原因究明をしても同じような怪我が起こることもあり危機管理意識の強化の継続が必要と考える	B	A	・保護者参観日を今年度から設けたことで、コロナ禍以前より保護者参加・参観が活発になったと感じる。希望参観行事は、参観者が少ないようなので、保護者が参観したくなるような発信の仕方を工夫してほしい	危険箇所へ気付いた時にすぐに書き込めるようなシステム作りを行い、タイムラグのない環境改善を目指す。園全体の事を自分事として捉え他クラスの環境にも意見を出していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、遊びや生活の様子を情報発信し、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りに努めている	玄関ホールを活用し、日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を行った。「ワクワクweek」として行事の前は当日に向けて気持ちが高まるような掲示をしたことで、保護者と子どもの会話に繋がった	A	A		玄関ホールの活用を継続して行い、情報量など調整しながら、子どもの日々の遊びを五感で感じられる掲示を考えていく。コドモンでの発信も保護者が見やすい内容に改善する
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	園は、近隣園、学校と連携を図り、園児学や公開保育、公開授業に参加しあい、情報交換を行っている	近隣園（長沼こども園）とは2年目の年間交流となり、今年度は職員の交流や幼小のつながり方研修も実施した。複数の高校の学生とボランティア活動や実習等つながることができ、今後は小学校とのつながりも強化していきたい	A	A	・1年生のスタートカリキュラムは階段ではなく、坂道であるべきだと考えている。こども園での遊びが広がっていくように、次年度の公開保育は1年部の職員以外も参加したいと思う	幼児だけでなく、乳児も交流をしていく。タブレット端末を活用し、近隣の学校にzoomで交流等提案及び計画をし、子どもも保育者も交流する機会作りを行う
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、日々の生活の中で地域の方とのつながりを意識し、親しみを感じながら豊かな生活体験ができる機会を設けている	日々の生活の中で、介護施設や材木店などの近隣の施設と年間を通して交流することで園児たちも親しみをもって出掛けていた。継続してつながっていくとともに、交流の場を広げ、各年齢での交流方法を考え実施していきたい	A	A		次月の指導案を職員間で検討する際に、地域とのつながりも項目に話し合い、機会作りに通しをもつ。また施設や商店等今までの場を大切するとともに新規開拓をしていく